地域に根ざす図書館認知症カフェプロジェクト

深水　浩司　常勤特任准教授
（教職総合支援センター）

本プロジェクトは、多摩市立図書館、大妻女子大学教員と図書館サークル OLIVE、多摩校図書館司書課程受講者、社会医療法人河北医療財団多摩事業部 天本病院勤務医師と日本うつセンター勤務精神保健福祉士・公認心理士との連携によって企画・実施された図書館カフェである。

主催は多摩市立図書館で「高齢者と家族のための図書館カフェ」と題し、本プロジェクトが共催、医療従事者は協力という体制をとった。

参加者募集は多摩市立図書館と本プロジェクトで分担しポスターを作成し地域掲示板等に貼り出し、合わせて多摩市広報誌『たま広報』や多摩市の Web での宣伝も行った。10 組限定での募集だったが、実際には 4 組の参加となった。日程は以下の通りである（参加者は 2 回とも参加できることを条件に募集）。

2022 年 9 月 11 日（日）
研修（医師、心理士から高齢者の特徴や接し方を学ぶ。学生と教員、図書館担当者が対象。）



研修の様子（2022 年 9 月 11 日）

10 月 22 日（土）　1 回目　興味や好きな本について語り、資料（本）の選択と貸出



参加者全員で好きな本について語り合う
（2022 年 10 月 22 日）



参加者と学生で選んだ本
（2022 年 10 月 22 日）

11 月 5 日（土）
2 回目　貸出本の感想や、読書・図書館についてディスカッション



参加者と担当学生との談話
（2022 年 11 月 5 日）



参加者全員でのディスカッション
（2022 年 11 月 5 日）

参加した学生は 6 名。カフェ開催に先立ち、参加者が当日メモとして使えるように、和紙と麻糸で作成した「和綴じノート（B5）」を学内で作成した（参加者には大好評）。



学生と教員で作成した和綴じノート

研修を経て、初日は参加者とコミュニケーションをとりながら、本人の興味を引き出したうえで図書館内の資料（本）選択や貸出等のサポートを行った。

2 回目は、まず参加者と学生とで読後感想や考えたことなどを話し合い、それを全員で共有した上で異なった視点からの意見や感想を語り合った。

参加者からの感想では、若者と触れ合うことができた感動や、図書館や本を通じて多くの人と交流できたことの喜び、自分が読んだ本について皆が語り合うことで、新たなものの見方や情報を得ることができた新鮮さなどが述べられていた。さらにこのカフェを今後も続けてほしいとの要望が全参加者からあった。学生の感想も同様で、普段触れ合う機会が少ない高齢者とのコミュニケーションが特に勉強になったとの感想が多かった。



日本ポジティブサイコロジー医学会
第 11 回学術集会（2022 年 12 月 3 日）ポスター発表

本プロジェクトにおいて、地域住民と本学図書館学課程に関係する学生や教員、多摩市立図書館、近隣の医療従事者との連携が「図書館というシステムを通じて」取れたことは有意義である。学生が本学の教育で得たことをもとに地域への貢献ができるとともに、地域や社会の現状を肌に感じそれを糧に更に学び、経験を豊かにできる地域との連携や貢献の形がここにあると思えた。

最後にこの成果は、日本ポジティブサイコロジー医学会 第 11 回学術集会（2022 年 12 月 3 日）において『図書館を利用した高齢者カフェのプログラム（T カフェ）の開発と実践報告～高齢者のウェルビーイングを高める～』としてポスター発表されている。